

W18a VSOP-2 地上系整備およびサイエンス運用センター計画の進捗

梅本智文、萩原喜昭、河野裕介、川口則幸（国立天文台）、VSOP-2 地上観測系総合ワーキンググループ、SOC ワーキンググループ

国立天文台では、次期スペース VLBI 計画である VSOP-2 計画の実現に向けて、宇宙科学研究本部 (ISAS)/宇宙航空研究開発機構 (JAXA) と協調しながら、それぞれの役割分担に基づき、地上観測局の整備および科学運用の実行に必要なサイエンス運用センター開設へ向けて検討を進めている（2009 年春季年会）。

地上観測局整備については、VSOP-2 において天体磁場の観測と高感度撮像を実現するため、地上観測系総合ワーキンググループを組織して、国内主要局のフロントエンドの両偏波化、バックエンドでは広帯域 2Gbps 記録システムの試験および配備を進めている。これらは、国内の大学連携 VLBI グループなどと協力して作業を進めている。これまで地上観測系総合ワーキンググループでは、各局の機器の現状の把握をおこない今後の開発と整備の方針について検討をおこなった。これに基づき 22GHz 帯両偏波受信機、および地上局デジタル系機器の開発と配備を進めている。

サイエンス運用センターについては、VSOP-2 計画を利用する研究者が科学的成果を最大限に上げられるよう、共同利用運用、観測運用、データ処理及びアーカイブ、ユーザーサポート、など必要な項目について検討を進めている。これまでワーキンググループでは必要な機能の洗い出し、ISAS / 天文台の役割分担、開発項目の整理を行い、開発スケジュールや必要な予算の検討を進めてきた。現在、運用システムのスケジュール作成、計算機システムの設計と構築（解析 / アーカイブ / データベース）、自動解析ソフトなど、優先度の高い項目から具体的な作業内容を洗い出し、その一部は関連大学主導で検討・設計・開発を進めている。

講演では、それぞれの進捗について報告し、今後の方針と予定について述べる。